

## 纏向遺跡(桜井市)

この前方に纏向遺跡(辻地区の建物群)が存在する/右手の山が三輪山/このエリアは初期ヤマト政権発祥の地



建物跡を示した杭が立ち並んでいる/左手に説明板が立っている



纏向遺跡は三輪山西側に広がる3～4世紀の大規模集落遺跡/卑弥呼の墓ではないかといわれている箸墓古墳をはじめ、纏向石塚古墳・矢塚古墳・勝山古墳・東田大塚古墳・ホケノ山古墳があり、大型建物跡、巨大な運河跡や各地の土器、桃やイネなどの植物の種が相次いで見つかった/他の一般的な集落とは異なる点が多いことから、日本最初の「都市」、あるいは初期ヤマト政権最初の「都宮」とも目されている



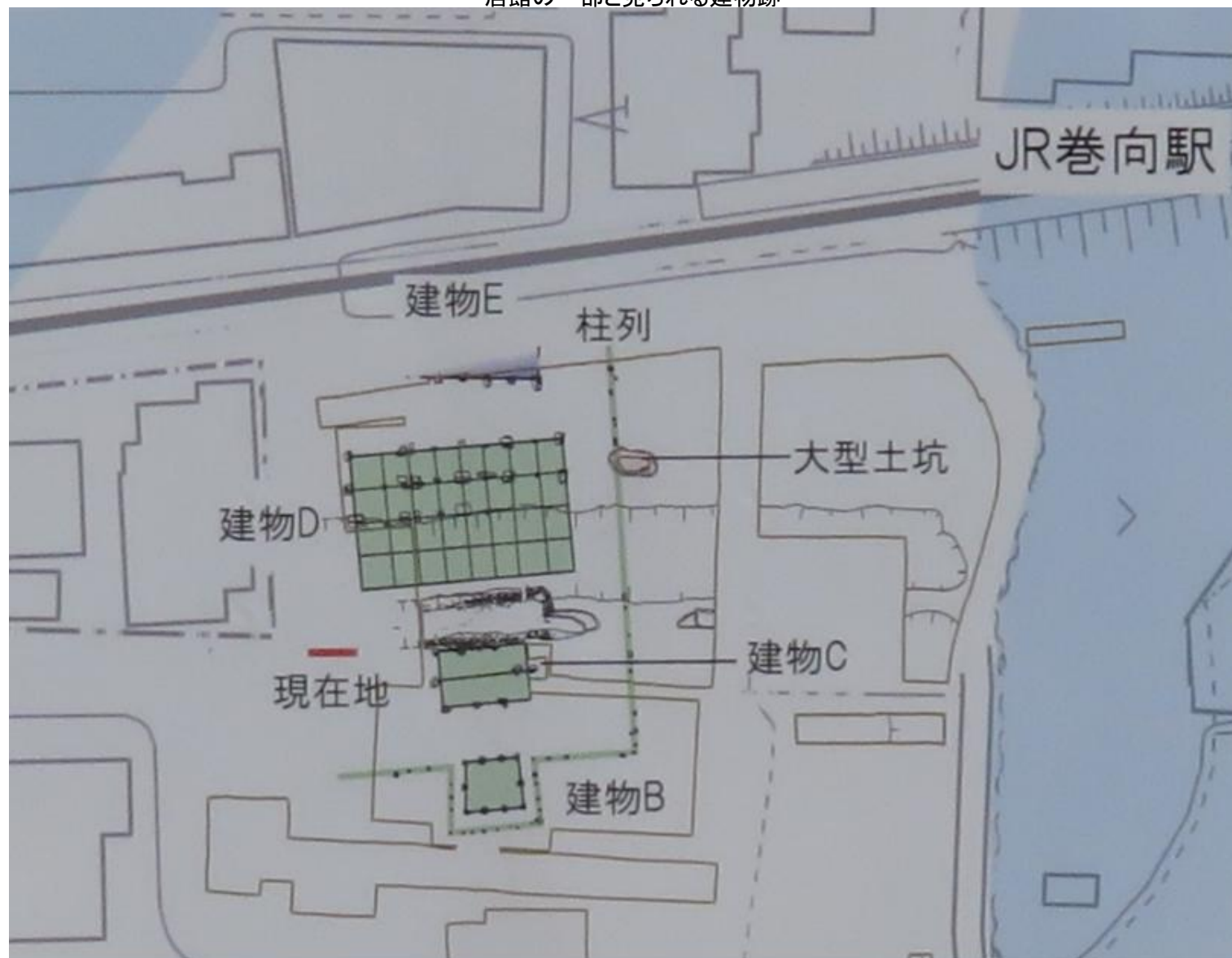


居館域の全景(西から)

桜井市では平成20年度より、  
纏向遺跡の中核となる居館域  
を探る調査を開始し、3世紀  
前半～中頃にかけての居館の  
一部とみられる3棟の建物群  
を確認しています。

これらの建物群の確認は軸線  
や方位を揃えて建てられた国  
内最古の事例となり、一連の  
調査はヤマト王権の王宮の構  
造を解明するものとして注目  
されています。

居館の一部と見られる建物跡



西側から見たところ



この背後はJR桜井線



南西側から見たところ





そこで右手を見たところ/前方がJR巻向駅



建物跡D/南側から見たところ



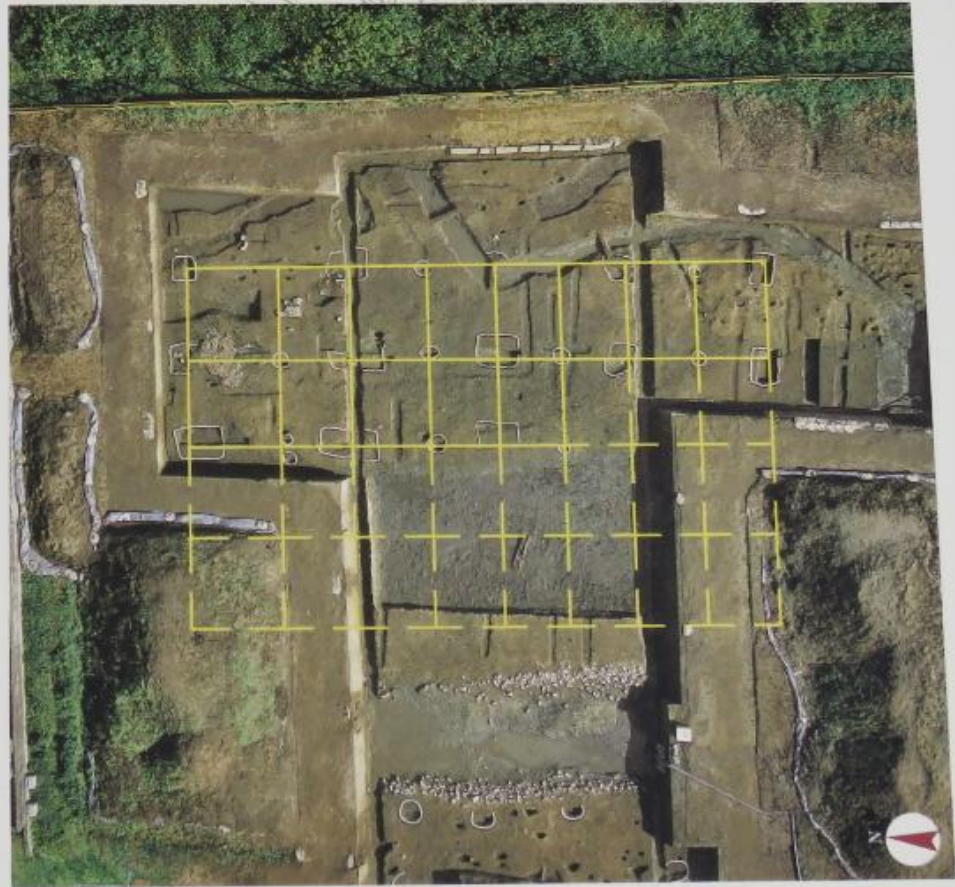
## 建物 D [Building remains]

建物の西側が4世紀の溝によって壊されており、東西2間×南北4間分しか見つかりませんが、本来は東西も4間であったと考えています。

復元による建物は東西約12.4m×南北約19.2m、床面積約238㎡と大型で、建物方位はB・Cと同じく真北に対して4～5度、西へと振れていました。

方形や長方形の柱穴には直径約32cmの柱が推定され、約4.8mと広い南北方向の柱間には円形の柱穴があり、ここには床を支える直径約15cmの束柱が立てられていたようです。なお、建物の下には、柱を安定させるための基壇状の盛土の存在が推定されています。

桜井市教育委員会



建物の西側は4世紀後半の溝によって削平を受けており、検出された建物規模は2間以上(6.2m以上)×4間(19.2m)でしたが、本来は東西も4間の規模と考えており、南北長19.2m×東西長12.4m、床面積約238㎡の規模に復元される、当時としては国内最大の建物遺構です。



建物D(南から)

建物跡C/南側から見たところ



## 建物 C [Building remains]

建物の一部が他の遺構によって壊され、正確な規模は不明ですが、建物の南北からは屋根の棟木を支える棟持柱の痕跡が見つかり、本来の大きさを推定することができます。

復元された建物は東西1間(約5.2 m)×南北3間(約8 m)、床面積約41.6 m<sup>2</sup>で、建物方位はB・Dと同じく真北に対して4～5度、西へと振れています。

柱穴は楕円形のものが多く、大きさは直径70～80 cmと大きめでしたが、使用された柱は建物Bと同じく直径約20 cmのものであったと考えています。

桜井市教育委員会



↓ 要部は妻部のミスか



建物C(北東から)

この建物は南面要部東西両柱  
穴が後世の遺構の掘削により  
失われているため正確な規模  
は不明ですが、南北の両妻部  
の中央からは建物に近接する  
形で棟持柱が検出されており、  
復元では2間(5.3m)×3間  
(約8m)、床面積約42㎡の規  
模を持つことが判明していま  
す。

建物跡B/南側から見たところ





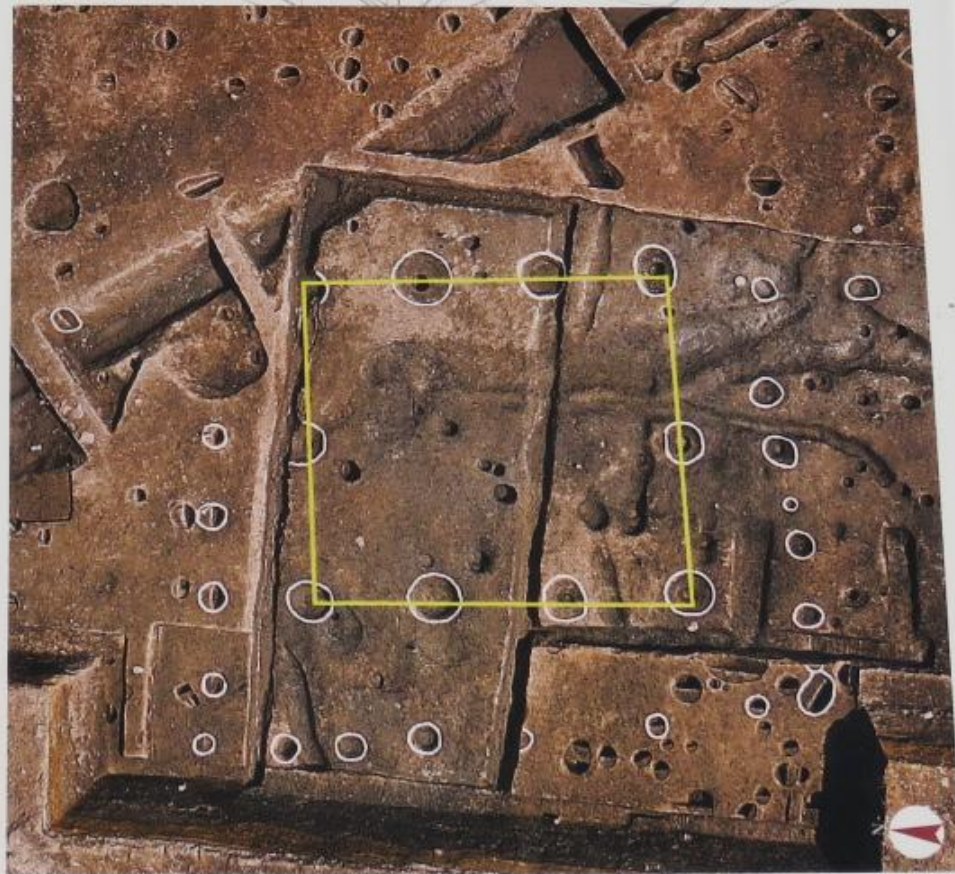
## 建物 B [Building remains]

東西2間(約4.8m)×南北3間(約5.2m)、床面積約25㎡の建物跡で、建物の方位はC・Dと同じく真北に対して4～5度、西へと振れています。

発掘調査により確認された柱穴は、円形のもので、大きさは直径50～60cmでした。柱穴に残った柱の痕跡により、建物に使用された柱は直径約20cmであったと推定されます。

なお、建物西辺の南から2つめの柱穴からは、建物を解体し、柱を抜き取ったときに埋められたと考えられる小型器台が1点出土しており、建物を取り壊された時期を知る手掛かりとなっています。

桜井市教育委員会





西・南・北の三方を柱列によって囲まれた2間(4.8m)×3間(5.2m)、床面積約25m<sup>2</sup>の規模を持った建物遺構です。建物Bと柱列との間は1.5～1.7mと非常に狭いものであることから、高床の建物の可能性が考えられており、東側からの出入りが行われたものと推定しています。

建物B (西から。奥に建物Cが一部見えています。)

## 建物跡E

南北2間(9m)以上、東西1間以上の大型建物になると考えています。建築時期は3世紀後半を含めてそれ以降ということしか解っていませんが、B~Dの3棟の建物群とは建築時期や建物方位が異なることから、未知の時期の居館が存在することが明らかとなりました。



建物E(北西から)

## 大型土坑跡

3世紀中頃の南北約4.3m、東西約2.2m、深さ約80cmの長楕円形の土坑です。出土遺物には多量のモモの種のほか、土器・木製品・動植物遺体などがありましたが、多くの遺物が壊された状態で出土しており、建物群の廃絶時の祭祀において道具類を破壊し、投棄したものと考えています。



大型土坑(東から)

南方向を見ると、前方に箸墓古墳が見える



アップ出見たところ/右手が前方部、左手が後円部



参考ホームページ

<http://www.makimukugaku.jp/info/iseki.html>

<http://inoues.net/club/makimuku.html>

[http://www.geocities.jp/usagi\\_yokohama\\_2010/makimukuseki/makimukuseki.html](http://www.geocities.jp/usagi_yokohama_2010/makimukuseki/makimukuseki.html)

<http://www.kashikoken.jp/museum/yamatonoiseki/kofun/makimuku.html>

[https://blogs.yahoo.co.jp/zengoodhistory/42078494.html?\\_vsp=57qP5ZCR6YG66Leh](https://blogs.yahoo.co.jp/zengoodhistory/42078494.html?_vsp=57qP5ZCR6YG66Leh)

<http://sakuwa.com/ma1.html>

<https://narayado.info/nara/makimukuishizuka.html>

<https://sakurai-kankou.iimdo.com/%F5%90%8D%E6%89%80/%F5%B1%B1%E3%81%AF%E8%BE%BA%E3%81%AF%E9%81%93%E5%91%A8%E8%BE%BA/%F7%BA%92%E5%90%91%E9%81%BA%E8%B7%A1/>

